

住吉大社駅周辺のさらなる活性化を目指します

南海電鉄（社長：亘 信二）では、史跡・住吉大社の最寄り駅である住吉大社駅周辺について、より多くの人々が集う「街」への進化を目指す取り組みに着手します。

そのための施策は以下の 3 点です。

- 1．住吉大社や粉浜商店街などの地元関係者と連携した振興策の検討・実施
 - 2．住吉大社駅のバリアフリー化
 - 3．商業施設「ショップ南海住吉」のリニューアル
- 詳細は下記のとおりです。

記

1．活性化を目指す背景・目的

住吉大社駅東側には、大阪市内唯一の国宝建造物を有し、正月 3 が日の参拝客数が約 231 万人（平成 19 年実績・警察庁調べ）と大阪府下で最高の人出を誇る「住吉大社」があり、その周辺は古くから門前町として栄えてきました。

そして、同駅西側の住吉公園は、明治 6 年に開設された大阪で最も古い公園であり、広さ約 8 ha の園内に四季の草花や常緑樹が生い茂る市内有数の緑地帯です。また同駅周辺には、大正 8 年に誕生した歴史ある粉浜商店街をはじめ、数多くの商店が軒を連ねており、今でも数多くの買い物客でにぎわっています。

一方、当社では、平成 17 年度を初年度とする 3 か年経営計画「進化 123 計画」の基本目標の一つとして「沿線価値向上に資する施策の重点実施」を掲げ、沿線地域の活性化に取り組んでいます。

そこで、その具体的取り組みとして、前記のとおり「観光」と「商業」の両面から魅力に満ちている住吉大社駅周辺について、同駅のバリアフリー化及びショップ南海住吉のリニューアルを契機に、より多くの人々が集う「街」への進化を目指すこととした次第です。

2．駅周辺活性化に向けた当社の取り組み体勢

今回の活性化策は、当社の経営政策室、営業推進室、鉄道営業本部、不動産営業本部が組織を横断し編成した「住吉大社駅周辺活性化プロジェクトチーム」が推進しています。各室・本部が個別に駅周辺の活性化を図るのではなく、互いに協力しあい、総合的な観点から駅の活性化を目指して取り組むものです。

当社では、今回の活性化をモデルケースとして、今後も沿線価値向上のために様々な工夫を凝らした取り組みを進める方針です。

3. 住吉大社駅周辺活性化のための施策について

(1) 住吉大社や粉浜商店街などの地元関係者と連携した振興策の検討・実施

住吉大社や粉浜商店街などの近隣商店街、地元区役所などで構成される「住吉っさん門前町集客推進協議会」に当社も参画し、観光やグルメ、ショッピングなどが連動した振興策や、独自性を打ち出した活性化策などを検討し、その実現を目指します。

具体的には、見どころやグルメ情報など住吉大社駅周辺地域の魅力を発信するホームページを当社が開設し、地元関係先のホームページと相互にリンクを実施することや、地元商店街と連携した販売促進活動などを検討しています。これらによって、住吉大社駅周辺の隠れた魅力を沿線内外の方々や海外からの観光客などにも広くアピールし、街の集客力・活力を高めていきます。

(2) 住吉大社駅のバリアフリー化

ア、バリアフリー化の概要

上り・下り両ホーム コンコース階(2基)とコンコース階 1階(1基)のエレベーター3基や多機能トイレなどを新設し、お年寄りや妊婦、身体の不自由なお客さまにも、安心してご利用いただけるように改修します。

イ、総事業費

4.98億円(国土交通省及び大阪市からの補助金を含みます)

ウ、工期

平成19年4月から20年3月(予定)

エ、住吉大社駅について

(ア)開業日 明治18年12月29日

(イ)住所 大阪市住吉区長峽町3番14号

(ウ)1日平均乗降人員 9,483人(平成18年度)

(3) 商業施設「ショップ南海住吉」のリニューアル

ア、リニューアルのコンセプト

史跡・住吉大社の最寄り駅にふさわしく、門前町としてのにぎわいと伝統を醸し出す商空間の演出。

イ、リニューアルの概要

(ア)住吉大社の門前町を意識して、中央通路を石畳仕様にするとともに、入り口や店舗区画などにも装飾を施し、参詣路としての雰囲気醸成します。

(イ)現行の店舗区画の一部変更・移設や同業種店舗の整理を行うとともに、足湯・マッサージ、住吉名物菓子・雑貨といった新規業態を誘致します。

ウ、総事業費

2.5億円

エ、工期

平成19年9月~20年3月(予定)

オ、ショップ南海住吉について

(ア)開業日 昭和55年4月29日

(イ)住所 大阪市住吉区長峽町3番14号

(ウ)店舗売上 6億3,150万円(平成18年度)

(エ)現店舗数 26店舗(リニューアル後は27店舗)